

放送教育（全国放送教育研究会連盟）校種別研究交流会 ⑥特別支援教育

テーマ ■ 特別支援教育における放送番組と
インターネットの活用に向けて

●活用番組 「週刊こどもニュース」

コーディネータ 坂田 紀行（前全放連副理事長） 発表者 天野ちさと（大阪教育大学附属特別支援学校）
制作者 奥西 邦彦（NHK学校教育番組部） 村主 岳史（NHK大阪放送局）
司会者 齋藤 康男（東京都立府中特別支援学校） 記録者 服部 千草（東京都立町田の丘学園）

1 発表概要

◇授業実践報告（天野）

高等部知的障がい課程での実践。支援や工夫、情報のバリアフリー、アクセシビリティ、ユニバーサルデザインの観点から検討していきたい。

週1回社会の授業で、導入部分15分程度に「世の中まとめて1週間」の部分を毎週視聴。ねらいは、

- ・世の中の動向に興味や関心をもつ。
- ・テレビ等からの情報を活用して自分の生活を豊かにする。

2択のクイズ形式で答えるプリントを用意し番組を視聴。1つのニュースが終わるごとに一時停止し、プリントに書き込む。ニュースがすべて終わったところで、内容を確認しながら答え合わせ。関心をもったニュースについて、生徒が発表。

工夫と支援は、

- ・プリントで、ポイントを示す。
- ・2択で答えやすく。
- ・文字で書かれたものを手がかりに。
- ・一時停止で、ニュースごとに確認。
- ・答え合わせし、説明を加えて理解を確かなものに。

生徒の変化は、メモしたり、集中しての視聴。活発な意見も出て、家庭でも視聴したという報告。新聞やニュースへの関心も。しかし、知ったニュースを生活に活かすには至らない。

知的障がい者にとってわかりやすい情報資源とは何か。社会における知的障がい者と情報のバリアフリーについて検討したい。

2 研究協議内容

- ・ニュースがわかることが目標ではなく、情報をとらえる力を身につけて欲しい。
- ・情報が多いと選択がたいへん。シンプルに。
- ・自尊心を妨げず、受け止める力を高めることが大切。

- ・世の中の話からではなく、自分たちの身近なものから考えることがよいのではないか。
- ・関心を持たせるのはよい。身近な例で説明したり、生徒たちが積極的に調べたりに使えないか。
- ・クイズ化や、きっかけとしてはよい。ニュースソースをどこに持って行くのか。ニュースそのもののユニバーサルデザインが必要か。そうなる活字メディアになるか。

◇特別支援教育番組について（NHK大阪放送局）
スタートは発達障害の子どもを想定。今は一般の子どもたちも。その子の言い分もわかり、周囲の気持ちもわかるように制作。来年は年齢層を小学校高学年から中学1年生を対象に制作する予定。

3 指導・講評（坂田）

番組に身体を動かすことを取り入れるとよい。出演者はできるだけ身近な服装にすると子どもは安心してテレビといっしょに身体を動かす行動につながりやすいのでは。授業者は教材に何を使いたいか、どんな学習に活用するのか、また、授業での使い方、どういった番組があるのかなどの視点で教材研究の充実が大事である。

4 まとめ

子どもにとって身につけなくてはいけない生活基盤をつくる方法の一つとして、マルチメディア教材（番組を含む）の活用がある。実践して具体的なものにすることが成果につながっていく。

